

4386 地球のかおり：「ピサの斜塔」(産経新聞) 心模様

厳しい取材のひとり旅を、無事、果たし、ご褒美に、歴史的な街を訪ねた。

これも取材旅の、楽しみの一つ。

特に、イタリアには、ローマ時代からの歴史がある。

ひととき、いにしえを、ふりかえり、楽しい時間を、持つことができた。

そのギャップの繰り返しだが、なんとも面白い。

イタリア北部は、言うに及ばず、時間をかけて周遊。

イタリアは、地図上では、靴の形のような地形。かかとの先まで訪ねた。

中部、イタリアの中世都市、ピサは、フィレンツェ、西 90 キロ。

フィレンツェを流れるアルノ川の河口にある、海運都市国家。

フィレンツェから、ピサへ行く途中に、ヴィンチという村がある。

天才、レオナルド、ダヴィンチの故郷。

天才の生家は、谷を見下ろす、高台にあったらしい。

天才は、この静かな美しい環境の中で、幼年時代を過ごしたことになる。

自然と親しむことは、すべての根源。自然は、大芸術家。

歴史遺産もそう。環境が、人を育む。

私が訪ねたのは、夏だった。イタリアを訪ねるのは、夏がいい。

陽気な雰囲気が、倍加される。海も最高。汗びっしょり。

開放感は最高！ ビバ イタリア！

ピサは、ローマ時代からの商業港。ピークは、11 世紀。

小アジアや、北アフリカまで、経済圏を拡げ、交易を行ったらしい。

ライバルは、ジェノバや、ヴェネツィア。

覇権を競ったと、記録にある。

コートダジュール、ニースから、海岸線沿いに、モナコを訪ね、
ジェノバ経由、海岸線の歴史的な街々を、取材で訪ね歩き、イタリアを満喫。
そして、ロマネスク様式の傑作である
ドーモに付属する、ピサの斜塔（鐘楼）に到着しただけに、
その個性は、卓越しているように感じた。

ピサの斜塔には、こんな逸話もある。
当時、ピサ大学で、医学を学ぶ、ガリレオが、斜塔で「落下の法則」を実験。
ドーモに吊り下げられた、ランプから、「振り子の党則生」を発見。
また、1174年の建設当時から、地盤沈下のため、毎年傾斜。
白色の大理石、55メートル程度の高さの塔だが、斜塔というだけで、
世界中から、注目を集めているとのこと。

さて、画像記録は、どうするか。勿論、行列に並んで、塔の上にも登った。
街並みも見渡せる。いろいろアングルを悩んだが、
第一印象の、ご覧のような、オーソドックスな視点の光景を選択した。

アモーレ（恋して）カンターレ（歌って）マンジャーレ（食欲）の国。
私には、ピサの斜塔を見たことで、イタリアを、さらに実感した。